

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396100071		
法人名	株式会社 プラス		
事業所名	グループホームあかり(みよし苑)		
所在地	みよし市打越町山ノ間 80-2		
自己評価作成日	平成29日 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成30日 3月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/23/index_nhp?action=kouhyou_detail_2017_022_kanistrue&lijvovocd=2396100071-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29日 9月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様が、在宅生活を希望されて見える間は、全力でお手伝いします。家族の一員となり、一緒に楽しみ、悩み、そして協力し合って生活をしていきたいと思っております。ご利用者様の心を癒し、その人らしく過ごして頂ける様に安心感のある居場所づくりを考え、外出する機会を多くつくり、楽しみながら季節を感じ、心身の活力を引き出して頂けるよう取り組んでいます。そしていつも笑顔があふれる職場、利用者様の笑顔が多くなるようにと月1回の勉強会で認知症の認識を深め、対応方法、事故防止等にも意見交換をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームを訪れ、一番に目を引かれるのがヤギの存在である。「昔はヤギを連れて嫁に来た」「ヤギが嫁入り道具だった」という利用者や近隣の人の話を聞き、飼育に踏み切ったという。その他にウサギの飼育もおこなっている。時として、動物の存在が地域との窓口にもなり、近所の子どもが餌をくれたり、ウサギを見にホームまで来てくれたり、近隣のお年寄りが散歩の途中に立ち寄ってくれるというエピソードも楽しげである。
支援では、利用者優先の方針は変わらず、希望実現の充実を目指し、どんな小さな望みも聞き逃さず、実現に努め、利用者の満足度に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に、職員にあかりの家理念を伝え、地域密着型サービス意義も説明し、玄関・事務所に掲示しています。会議等でも話し合いをして、理念を大切にしています。	入職時には管理者が説明を行い、「あなたの笑顔が見たいから・・・」の意味を考えてもらっている。職員一人ひとりの自覚の中に理念があるという、運営者の思いがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していませんが、散歩や買い物に出かけた時には近所の方に笑顔で挨拶をしています。	ヤギやウサギの飼育が近隣交流のきっかけとなり、挨拶止まりだった交流にも変化が出てきている。近隣から季節の野菜や果物が届いたり、餌やりを目的とした来訪も増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの概要を説明したり、広報に記事を書いて地域の方にみて頂いております。地域の高齢者の方が気楽に遊びや相談に来て頂けるように声掛けをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や取り組んでいる内容等を報告し、地域の方や包括の方々の意見を頂き、有意義な話し合いになるよう心がけています。また行事に参加いただき苑の様子を見て頂いています。	年6回の会議を開催している。地域代表、家族、市担当者等が参加し意見交換を行っている。地域代表である区長が、地域情報を積極的に話してくれ、意見や提案も併せて話し合える機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者やケアマネが、市役所の長寿介護課の窓口にて、随時 入居状況や、ケアにおける困難事例等の報告・相談をしながら、質の向上に取り組んでいます。	運営に関する相談や報告を通じ、適切に指導・助言を仰いでいる。地域包括支援センター主催の勉強会へ参加し、地域事業者と交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施し職員の共有認識を図っています。そして毎月、身体拘束・虐待防止委員会を開催し、気づかないうちに言葉をさげざげしていないか、そしてスピーチロックに気を付け、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束・虐待の委員会を設置し、毎月委員会を実施している。職員会議の後、勉強会を行い、知識の周知・統一を行っている。利用者の安全確保についても、拘束を行わない工夫を話し合い、現在も一切の拘束を行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実地し、虐待行為にあたる事がないよう、意識を十分にもちながら注意をはらっています。また虐待の疑いがある場合は直ぐに包括、市と連携をとり、防止、事後対応できる体制を取っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ十分ではありませんが、研修会に参加し、勉強会を実地し、利用されている方について説明をしたり、学ぶ機会をつくり、理解を深めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様やご家族様の不安を軽減出来るよう、ケアに関する考え方や取り組み、利用料金等、同意をして頂けるよう丁寧に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し記入出来るようにしています。家族会を開催したり、自宅訪問を行い、意見を反映させるようにしています。	年1回の家族会開催があり、出席率も良く、忌憚のない意見聴取の機会となっている。厳しい意見に対しても常に真摯な対応に努め、職員周知で改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を行い、意見及び提案を聞いています。又、日頃から問いかけるよう心かけ、意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。	毎月の全体主義とユニット会議、その後に開催する委員会や勉強会で、職員の意見や提案、意向や希望を聴取している。風通しの良い会議であるとの職員意見もあり、職員満足がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう支援し、職場内で経験が活かせる環境作りに努めています。個別に話を聞き、職員同士の間人関係を把握し、働きやすい職場を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだ機会が多いとはいえないが、事業所外での研修に受講出来るようにして心掛けています。研修報告は、ホームの勉強会で発表してもらい、全職員が共有できるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会ががあれば情報交換をして、質の向上に繋がるように話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、不安な気持ちを理解し、向き合い、利用者様の思いを傾聴するようにしています。そして本人の希望に添った支援が出来るように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を通じて、ご家族様の今までの苦労や不安な気持ちをゆっくり傾聴し、求めていることを十分に理解できるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけ話し合あったうえで、福祉用具の貸与・住宅改修の必要性、また他事業所の紹介等、適切なサービス利用を受けられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族」のような関係が築けるよう、必要な買い物に出掛けたり、家事をし、共に支え合い生活出来る関係づくりをしています。また尊厳を忘れず穏やかな関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での生活で、家族が悩まれる事が少なくなるよう、話を傾聴し、笑顔が多くみられるよう、お手伝いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰ったときには交流する機会もでき、また自由に面会でき楽しんで頂けるような体制づくりに努めています。	地域からの利用者が多く、利用者同士が馴染みである利点もある。近隣の外出先では、顔なじみの人から声を掛けられ、立ち話に花を咲かせている。家族外出で、法事等の親戚付き合いの継続もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	登録間もない方には、特に職員が関わりを多く持ち、良い関係を築けるようにしています。心身の状態や気分が感情の変化が大きいため、個別に話をきいたり、相談に乗り、楽しく過ごせるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さるご家族様には、近況をお聞きし、相談を受けています。又、近くに来たので寄りましたと、ホームを訪ねて下さるご家族様もみえます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、思いや希望を把握しています。ご利用者様が何を望んでいるのか、どのように暮らすことが最良なのか、ご家族様を交えて検討しています。	居室担当を定め、担当が主になって利用者の意向や希望を把握している。ユニット会議で行うケアカンファレンスで職員周知を図り、職員意見の集約を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問したり、日々の会話の中から生活歴や価値観、地域との関わり等、把握しています。職員全員が把握できるよう情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の様子も観察しながら、総合的に把握するよう努め対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様・関係者様との話し合い、意見を出し合いその意見を反映させるよう介護計画を作成させています。アセスメントを含め、月に一度カンファレンスを行い、スタッフと話し合いもしています。	更新時には、サービス担当者会議を実施し、家族参加で本人の意向実現を話し合っている。毎月のモニタリングで本人の状態を把握し、変化がなければ、基本的に6ヶ月で見直し、計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、個別の介護記録ファイルに、日々の様子やご利用者様の言葉等を詳しく記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用予定日以外の緊急通い・泊まり・訪問サービス等、ご利用者様、ご家族様の急な要望にも、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用様が安心して暮らせるよう、民生委員の方との意見交換や消防署職員による避難訓練を行っています。また、運営推進会議に包括の方が参加して下さることにより、情報交換も出ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用様、ご家族様の希望を大切にしています。ご家族様の同行受診が難しい場合は職員が代行しています。	協力医の定期的な往診を支援している。他科受診や専門医受診は原則家族対応を願ひ、家族と連携して相互に情報提供・共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に気軽に相談が出来る体制がとれています。健康管理には十分注意をし支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、病院へ訪問し、環境の変化で認知症が進まないように声掛けをし、話を傾聴しています。病院の医師、看護師からも経過説明を受け、速やかな退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要と思われる方には、重度化した場合や終末期になった場合について、ご家族様と話し合いをし、安心して納得した最期が迎えられられるように、取り組んでいます。	この1年で利用者の入れ替わりが6名あり、終末期支援について考えさせられた年度となった。ホームで出来る支援の説明、医療機関や他施設、自宅等、選択肢を持った移行支援に努め、本人にとって最善の方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を設け、職員には、普通救命講習修了証Ⅰを所持してもらっています。緊急時対応マニュアルを整備し、勉強会を行い、周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回、避難訓練を行っています。災害時のマニュアルを整備し、勉強会も行っています。	年2回の避難訓練を実施している。利用者参加で、一次集合場所の駐車場まで避難している。飲食料の備蓄を進め、有事に備えている。近隣との連携は、今後の運営推進会議で話し合っていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊厳を持ち、誇りやプライバシーを配慮した言動を心がけています。個人情報の取り扱いに関しては、細心の注意をしております。	接遇に関する勉強会を開催し、挨拶の大切さを指導している。挨拶基本の職員指導を、若い職員のスキルアップにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の指示ではなく、ご利用者様の思いや希望を表出できるよう、時間をかけて話を傾聴しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を配慮しながら、ご利用者様の気持ちを大切に一人ひとりに合わせ、過ごして頂けるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を取り入れたり、好きな洋服を着て外出したり、時にはお化粧できるように配慮しています。また起床時、入浴時には整容が出来るようにお手伝いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを相談したり、下ごしらえ、盛り付け等、一緒に出来るような雰囲気づくりをし、楽しく食事をして頂けるようにしています。	可能な限り「主役は利用者」の支援を実践している。買い物は利用者と一緒に出掛け、買い物をしながらメニューを考えている。外食や行事食の楽しみもあり、「食」が楽しみになるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は一人ひとり把握し、確認しています。栄養バランスは大切ですが、食事量が少ない方には特に、好きなもの食べやすいものを提供しています。また体調に応じて、医療食品を使用したり、水分摂取量の確認を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂いています。その方に応じてお手伝いをし、嚥下障害による肺炎の防止にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、一人ひとりに合わせて誘導することにより、トイレでの排泄が出来るように支援しています。また、歩行困難な方においても、職員二人介助にて、トイレでの排泄を行って頂けるようにしています。	トイレ排泄を基本に支援している。自立ではない利用者が半数の現状の中、声掛けや誘導、時間誘導等を行い、失敗のない排泄支援を目指し、実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・繊維質を工夫し多く取り入れたり、日常的に身体を動かせるよう働きかけ、排便コントロールが出来るよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決められた入浴の時間内で入りたい時に入浴できるように配慮し、強制はせず安心して喜んで頂けるよう職員が1対1で関わり、入浴を楽しんで頂けるように配慮しています。	毎週、月・水・金の週3日の入浴を支援している。拒否も少なく、入浴を楽しみにしている利用者もおられる。職員にとっては、利用者との絶好のコミュニケーションの機会として捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活出来るように促していますが、一人ひとりの身体状況、生活習慣に合わせて、休息できる環境にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が責任を持ち、服薬介助を行っています。往診後の服薬変更、注意事項にもすぐ対応できるように周知徹底し、入所者様の状態観察が出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方、外出が好きな方等、一人ひとりの力を発揮し、楽しみながら張り合いがもって頂けるようにしています。また共同制作の貼り絵等を行ったり、散歩に出ることで気分転換をしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい所を個別に聞いたり、季節に合わせた行事、外出、散歩、買い物、外食等外出できる機会づくりを行っています。	週2回の食材の買い物、外食月1回、喫茶外出月1回、その他、個別の家族外出等、ホームの外に出る機会が多い。毎日の散歩やヤギの餌やり等、戸外に出る機会も多く、「行きたいときに行きたい所へ」を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持つことはされていないが、立替の形で買い物出来る体制になっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご用件に応じてが家族様の協力を得たり、すぐに電話出来たり、手紙を出せる環境になっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえる壁画作りをし、四季の花や草木をフローアに飾っています。 また自然が多い環境なので花なども飾っています。	清潔感のある共有空間で、落ち着いた色合いの床や家具が、利用者のおだやかな生活を支えている。気の合う人同士の談笑の場であり、楽しみのある場所であることがうかがえる。採光・空調等にも配慮し、生活空間を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭に花を植えたり気分を変えて過ごせる場所を作り工夫しています。 またソファを置き、テレビを見たり、話しあったりできる環境になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの家具等を持ち込まれたり、写真等を飾り、少しでも自宅にいるような気持ちで、穏やかに過ごして頂けるようにしています。	入居時に、馴染みの物品の持ち込みや、思い出の物品配置の必要を家族に話し、協力をお願いしている。ホーム生活の経過年数とともに増えて行くであろう物品の管理も含め、継続的な取り組みとなる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上には手すりはつけておらず、自分の力を活かして自立した生活が送れるよう、安全確保と自立への配慮をしています。		